

2019年度 教育活動等に関する学校評価書

社会福祉法人愛の園福祉会
幼保連携型認定こども園
幕張海浜こども園

1. 教育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解をもって、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

<基本方針>

- ① 心の清い正直な人間（良心教育）
- ② 心の豊かな明るい人間（情操教育）
- ③ からだの丈夫な強い人間（健康教育）
- ④ 動作の機敏な人間（安全教育）

2. 本年度の重点課題

- ・配慮を要する子どもの育ちを支援する保育の充実。
- ・3歳未満児クラスにおける保育の環境構成と子どもの関わり方について研究し、個々の子どもの安定した成長の保障を図る。
- ・3歳以上児クラスにおける保育の環境構成や活動・教材についての研究し、子どもの発達・学習が促進される保育・就学前教育を計画的に実践する。
(教材研究、保育の準備、話し合い、記録、次月準備の時間の確保など)
- ・課題の改善(保育者間の連携・協働)の工夫に努める。
- ・個々の保育者の資質向上・保育の力量を高めるための園内公開保育、勉強会を計画的に実施する。
- ・キリスト教保育について、経験層ごとに学びを深め実践できるようにする。（キャリアパス研修の実施）
- ・3歳以上児の定員を確保するため、地域の小規模保育園との連携を図る。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価は、S(十分に成果があった)・A(成果があった)・B(少し成果があった)・C(成果がなかった)・E(取り組みが行われていない)で表している。)

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価結果	こども園としての反省と改善策	評価	意見
教育保育方針	1	栄養士と保育者が連携をとり、子ども達に経験して欲しい活動や学びを保育内容に具体的に降ろす。 ※資料	B	年間の食育計画書をもとに食育活動を行なった。また、食事の時間を通して子どもと栄養士との関わりも持てるようになってきている。 さらに保育者と栄養士が密に連携を取り、両者一体となって進められるようにしていきたい。	B	食育活動に関しては、年間を通して活動に取り組んでいることは大変良い事であり、家庭でも子どもの話から楽しんでいる様子が伺える。 朝ごはんの栄養やバランスよく摂る意味を伝えていく事も必要だと感じる。食育に取り組んでいる外部企業もあるので参考にしてみてはどうか。
	2	経験層ごとのキャリアパス会議を定期的に行い、聖書の理解やキリスト教保育、聖句についての学びを行う。また、それらの学びを各クラスに降ろし、実践する。	A	ケース会議を増やしたことで、キャリアパス会議を延期することが多かった。また、延期した会議の実施がされないこともあった為、今後は月毎の担当者を定め、職員に開催の徹底と周知をしていく。	A	
	3	事例検討会を実施し、職員間の共通理解を図る。	A	定期的に会議は行なっているが、全職員の共通理解に課題が残る。今年度はまとめ方や回覧の行ない方を見直し、改善出来るようにした。	A	
	4	個々の子どもの発達に合わせたカリキュラムの作成をし、全職員が意識し実践に繋げようとする。	B	個人の目標やカリキュラムの作成、保育の在り方について意識して保育を行なっている。引き続きの課題として、保育カリキュラムや具体的な保育方法についてさらに理解し、実践に繋がられるよう、クラス内会議や全体会議などで確認し、共通理解が持つ。	B	
特色ある保育の展開	5	0歳から12歳までの保育をこども園と学童の職員が連携し、実践する。 ※資料2	A	併設施設である幕張海浜キッズ(学童保育)と連携し、取り組みを進めている。 引き続きの課題は、部門間でカリキュラムやイベントや行事等の情報共有が出来るようする事と考える。	A	幕張海浜キッズも含め、0歳から12歳まで継続した保育が行なわれているのは一つの大きな特色だと感じる。今後も充実したカリキュラムを継続してほしい。姉妹園の保護者からも高い評価の声が聞かれている。
	6	一時預かり保育について、家庭と連携を密に取りながら子育て支援を行なう。 ※資料3	S	利用初めには密に連携がとれている。また、受け入れ時の引き継ぎや、変更時はその都度クラス担任と一時預かり担当が情報共有を図り、利用家庭との連絡が希薄にならないようにしている。	S	

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価結果	こども園としての反省と改善策	評価	意見
特色ある保育の展開	7	地域の子育て家庭に園を開放し、気軽に遊びに来ることが出来る計画、準備を行う。 ※資料4	S	園開放の計画、準備に取り組んできたが、さらに多くの方に来てもらえるよう、周知方法を再検討が必要。また、一時預かり利用の方にも日程や内容のお知らせを配布していく。	S	「いきいきサロン」を始め、地域では高齢者と子どもの交流はあるものの、一緒に遊んだり触れ合う機会が少ないので、一緒に触れ合いが持てる企画や機会が持てると良いと思う。 今後は園から企画するのであれば高齢者と子どもと一緒に触れ合える内容を企画し、また、子どもたちや地域の人たちが進んで足を運べるような案内を考えていく必要がある。
	8	近隣の高齢者の方々との交流の機会を持つ。	B	地域サークルの「いきいきサロン」を通じて交流を持つ事が出来た。今後は子ども園側からも地域交流を企画し、交流の機会を増やしていけるように地域との連携を図っていく。	B	
保育環境の充実	9	保育室が「教育的配慮のある環境構成」になるように工夫・改善していく。また、主体性や自己肯定感を育むための関わり方についての学びを深め、主体的な生活を送れるよう環境作りを行う。 ※資料5	B	各職員が環境を考え工夫し、改善に取り組んだ事で絵本棚や玩具棚が増えた。継続課題として、1年を通して継続的な環境整備が出来る様、計画を立て環境づくりを行なっていく。	B	視覚教材として絵本はとても大切な教材なので今後も見直しを行なってほしい。家庭で絵本を介した親子の関わりの中で童話や季節の絵本だけでなく聖話の絵本にも関心があるので貸し出しや展示を充実させ家庭に向けた発信があることで保護者も絵本選びの参考になるのではないか。
	10	絵本や紙芝居の充実・整備を行う。 ※資料6	A	絵本棚には絵本も充実し、季節の絵本や行事についての紙芝居を活用する事ができた。しかし、管理作業が十分でない為、定期的な確認を行いながら、破損があるものは修繕を行う。	A	

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価結果	こども園としての反省と改善策	評価	意見
保護者との連携	11	行事を通し、子どもたちの成長を感じる機会を設け、喜びを共有する。 ※資料7	S	年間行事や誕生参観等を通して、保護者と子どもの成長を共有出来ていると感じる。今年度は乳児保育参観の実施を見送った為、再会の検討を行うなど、乳児行事の充実を継続課題とする。	S	ブログや Facebook の開設を行なっているのに更新されないのが不信感に繋がるのではないかと。毎日行なう事が難しいのならば数日おきにでもペースを決め、定期的な更新を行なうべき。ブログや Facebook は保護者だけでなく、地域の方にも見てもらう事で安心感や入園希望に繋がると思う。
	12	降園時や個人面談の時に設け、保護者の思いを聞き、個々の様子について知らせる。	A	個人面談を設けているが、面談の時期や回数を検討する。面談の内容を記録し、職員間で情報共有を行っていくことも課題として挙げられる。	A	
	13	毎日の子どもの様子を伝えるため、ブログや Facebook ページ、クラス掲示板の充実を図るための検討を行う。 ※資料8	B	ブログの継続更新が課題として挙げられる為、各クラスの意識付けが出来るよう、主任より担当クラスへの声掛けや連絡簿を利用し知らせしていく。	B	
小学校連携	14	3歳児からの発達・学びの連続性を考慮した指導計画の作成・保育実践を行い、就学に繋げていく。	A	指導計画を作成し、保育実践を行っているが、発達の連続性を意識した保育実践を行う事には、個々のスキルアップが求められる。	A	充実した指導計画に沿って子どもたちが様々な事を体験出来る事は良い事だと思う。家庭の不安としては子どもが集団生活に遅れることなく過ごす事が出来ているのか心配する声もあるので、引き続き、個別への配慮が求められている。
	15	支援の必要な子どもに対しての専門機関や小学校との連携を密に行う。	S	要配慮児童保護者に対してのアプローチにより、個人面談の時間を多く取る事が出来ている。 今後は専門機関と保護者との事後確認や直接的な専門機関との連携が必要とされる。	S	専門機関との連携を図る上でも支援の必要な子どもに対するカリキュラムを専門機関にも渡してみることも検討してみてもどうか。また、専門機関の方と話した内容も文章に残し、情報を共有できると良い。

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価結果	こども園としての反省と改善策	評価	意見
保育者の資質向上・連携	16	職員が共通の思いと理解を持ち保育の質の向上を目指せるよう、日々の振り返りを行なう。	B	午睡中にクラスミーティングの時間を設け、保育を振り返る機会を持つよう心掛けている。 開催時間の確保と質の向上に対する理解が継続課題である為、開催趣旨の必要性を伝えながら開催時間の検討を行う。	B	保護者側のそれぞれの価値観で保育者を見る事もあるが、保育者はそれに捉われず、自らを振り返りながら質の向上に努める必要がある。
	17	教材研究、保育準備時間等の確保を行い、子どもの学び・発達を保証する保育に繋がれるようにする。	A	保育に使用する教材への理解や製作準備などを行ない、発達に繋がる保育を心掛けている。 保育準備時間が勤務時間内に確保出来ていない為、作業日程表を活用し、時間確保を行なう。また、乳幼児の検討会議の場を用いて教材研究を行ない、発達を保証する保育に繋げていく。	A	
	18	研修報告を作成し、回覧をする。また、会議の場で発表し、職員の質の向上につなげる。	B	研修報告は期日を設けて作成しており、他職員が回覧出来るようにしている。会議の場での発表を継続的にこなっていくようにする。	B	
危機管理	19	防災訓練時で出た課題をまとめ、今年度の訓練に取り入れる。	C	防災訓練の実施は園長が主体となっているが、今後は主幹保育教諭や副主幹保育教諭が主体となり計画通り実施できるようにする。	C	生活安全課の方に相談し、防災訓練についての直接指導も活用してみるのはいかがでしょうか。今年度は災害時に完全閉園の対応をし、保護者の混乱が懸念されたが、各家庭においても緊急時の対応についてはそれぞれ備えがあるので特に混乱は無いように思う。
	20	災害マニュアルの見直しを行い、各職員が自分の役割を理解する。マニュアルが把握できているかなどの確認を、必要に応じて行う。	B	各職員が各々の役割を理解している。 マニュアルの見直しや、途中入職の職員に伝え切れていない部分があるため、入職後に役割を伝えていくようにする。	B	
	21	園内事故については、見守りカメラなどを活用しながら確実に原因を探り、再発を防ぐための早い対応をとる。 ※資料9	S	事故発生の様子を動画確認する事で再発防止に役立っている。また、検証した内容を全職員が周知出来るよう、会議やクラスミーティングの場を利用し伝えている。	S	
	22	遊具点検の徹底化、ヒヤリハットを基にした具体的な事故防止に努める。 ※資料10	B	遊具点検の徹底ができていない為、全職員が共通意識を持ち定期的に点検箇所を実際に確認し、把握する時間を持つ必要がある。	B	

幕張海浜こども園学校評価実施要綱

2018年9月1日 制定

(目的)

乳幼児の教育・保育活動その他施設運営について目標を設定し、その達成や取組み状況について評価することにより、組織的・継続的な改善を図る。

(評価)

自己評価は、幕張海浜こども園の職員（保育教諭、栄養士、調理師、事務員、一時預り専任者等）によって行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取組みの状況について評価を行う。

学校評価関係者による評価は、幕張海浜こども園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の延長ほか、地域住民等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う。

(評価時期)

自己評価	年1回	9月・1月
評価委員による評価	年1回	1月
第三者評価	5年ごとに1回	2011年／2016年／2020年

(報告)

学校評価の結果は、保護者および地域住民に公表する。尚、公表時期は、評価を実施した翌月とする。

(評価委員とその任期)

自己評価者

1	園長：千葉諭、主幹保育教諭：浦裕美、保育教諭：遠藤逸希・後藤香菜・東里紗・坂内恵里香・福田茉衣子
---	--

評価委員

		役 職	氏 名 (敬称略)
1	幕張海浜こども園に在籍または卒園した園児保護者	現保護者会 会長 卒園児代表	保戸田絵美 松井龍行
2	地域関係者	社会福祉協議会幕張西地区部会 会長 千葉市第30地区自治会連絡協議会 会長 ライオンズマンション幕張プラザ自治会 会長	平野悦子 白田稔 結城常雄
3	姉妹園	社会福祉法人愛の園福祉会 第2幕張海浜保育 園長	福嶋悦子
4	その他園が認めた者		

評価委員の任期は委嘱の日から2年間とし、再任を妨げない。また、任期途中で地域の役職が変更された場合は、後任者と相談の上、引き継ぎを決定する。